

神話 『ブルーポールズ』

向 殿 充 浩

補足説明:

『ブルーポールズ』という題名について

この物語において、ブルーポールは、物語の節目節目で、高貴な青い発光とともに超越的な力を発揮し、道を指し示します。それゆえ、この物語の題名は『ブルーポール』としました。

このブルーポールの発想は、ジャクソン・ポロックの絵画『ブルー・ポールズ No.11』(1952年)から得ています。

この作品は、数あるポロックの作品の中でも、私が特に好きな作品の一つです。峻厳な深みをもった世界の中に現れる神秘的なブルーポール。そこから受けたインパクトがこの物語におけるブルーポールの発想に結びついていることを付記しておきます。尚、ポロックの絵画でブルーポールは8本描かれています。本作品でのブルーポールは7本です。

本作品の第5巻で登場するジャクソンという名の画家は、ジャクソン・ポロックをモデルとしています。

(2014年12月)